

## 第 54 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

ゼミ名	小山ゼミ	チーム名	チーム後藤
タイトル	救急車の運用費の利用者負担問題		
テーマ群	c) 公共経済		
メンバー	宇高 健悟、熊谷 球太、堀 雄太、後藤 仁、伊藤 璃音、村上 大地、白木 仁一朗		
研究計画内容	<p><b>【研究背景】</b> 令和 4 年中の救急自動車による救急出動件数は 722 万 9,838 件に及び対前年比で大幅に増加している。その対策として三重県の松坂市では 2024 年 6 月から救急車の有料化が始まっている。この対策は効果があるものなのか私たちは考えていく。</p> <p><b>【研究内容】</b> 海外の救急車に対する不正利用者の対策はどのようなものなのか調べ、日本で取り組むことができないかを考える。有料化を推奨している町を調べてその町が有料化したことでどのような影響を及ぼしたかを評価する。それらを踏まえたうえで、救急車の有料化することを制度化した場合の注意点なども考えていく。民間救急車と公的救急車との違い（例）出動かかる費用、全国的な数など</p> <p><b>【期待される効果】</b> 期待されること 救急車の運用費の一部を利用者負担にすることでフリーライダーやただ乗りを減らし、救急車を適正に利用することで年間 1000 億円以上を節約することが期待される。</p>		